

福音は、当然、必然的に宣べ伝えられるようになっている。それは神様の絶対的な計画であるからだ。

1. 福音を伝えることの當為性

- (1) Iペテロ1:9
- (2) Iヨハネ3:8
- (3) ヨハネ3:16
- (4) 使徒1:8
- (5) マタイ24:14
- (6) マタイ28:18
- (7) マルコ16:15

2. 福音を伝えることの必要性

- (1) ローマ3:23、創世記3:1~5、ヨハネ8:44
- (2) Iコリント15:3~5
- (3) 使徒17:2~4
- (4) 創世記3:15

3. 福音を伝えることの絶対性

- (1) 人間に必要な唯一のこと(マタイ16:16)
- (2) 人間に最も幸いなこと(マタイ16:16~17)
- (3) 主権的な管理者は誰だろうか(マタイ16:17~18)
- (4) この運動を防ぐ権威は誰だろうか(マタイ16:18~19)

4. 当然で、必然的で、絶対的な事業に参加できない理由

- (1) マタイ5:1
- (2) マタイ28:16~20

5. 核心要員がすること

- (1) ルカ10:1~20
- (2) 使徒2:1~18
- (3) 使徒6:1~6
- (4) 使徒7:1~56
- (5) 使徒8:1~8、26~40
- (6) ローマ16章

主は現場と未来を見てくださった。イエス様が持っておられたビジョンさえ持てば、現場を正しく見る目を持つことができる。神様をどのように知っているのかによって、見る目が変わる。

►目的：イエス様は方法を重要視されたのではなく、ビジョンの訓練、観点の訓練、現場の訓練を重要視された。

1. 見ることが重要だ - 何を見るのか

(1) ヨセフと彼の兄たちは、見る目が違った

① ヨセフ：神様がくださったビジョンを見た

② 兄たち：食べること、上下関係の秩序

(2) モーセとイスラエルの民：紅海

(3) モーセの見る目(出3:1~8、10~15)

(4) ダビデとサウル-見る目の違い(歴代29:10~12)

2. 何をまず見るべきなのか

(1) 出3:8
モーセはイスラエル民族がエジプトで奴隸生活をするのを見た

(2) ルカ15:11~16
放蕩する者を見た

(3) マタイ9:36
刈り入れる穀物を見た

(4) 使徒3:1~12
ペテロは足のきかない者を見た

(5) 使徒10:38
サタンに制せられた者を見た

(6) エペソ2:1~3
迷信、人の手に奴隸のように振舞う者を見た

(7) ヨハネ8:44
所属が悪魔の子どもである者を見た

(8) ヘブル9:27、ローマ6:23
限られた人生を見た

(9) 黙示14:9~11
審判を受けなければならない人生を見た

(10) マタイ12:43~45
偶像崇拜者(宗教生活:悪霊を仕えること)

6. 主の方法を悟った者たち

(1) ペテロ(使徒2:41~47、6:7)

(2) パウロ(使徒11:26、14:21~22、16:15、17:1~9、19:8~10、IIテモテ2:2)

(3) テモテ(IIテモテ2:2)

(4) ルデヤ(使徒16:15)

(5) プリスカ(使徒18:1~4)

(6) ローマ16章

(7) ヨハネ(IIIヨハネ1:2)

7. 核心要員に与えられた主の方法

(1) 使徒17:2~3

(2) 使徒16:16~18

(3) 使徒19:11~20

(4) マタイ28:16~20

(5) マルコ16:15~20

1. 核心要員とは誰なのか

- (1) マルコ3:13~19
- (2) ルカ10:1~20
- (3) ローマ16:1~23

2. 当時の教会の外の状況

- (1) マタイ5:1
- (2) マタイ9:36~38
- (3) ヨハネ3:1~8
- (4) 使徒4:1~6
- (5) 使徒17:1~9

3. 当時の教会の中の状況

- (1) 使徒2:41
- (2) 使徒4:4
- (3) 使徒6:7
- (4) 使徒6:1~2

4. 当時、思い出された主の方法

- (1) マタイ28:19~20
- (2) マルコ3:13~15

5. 主が計画された視線

- (1) マルコ16:15~20
- (2) マタイ28:18~20
- (3) 使徒1:8

3. 神様の診断と治療法は

- (1) 出エジプト3:10~12
 - あなたとともにいと約束
- (2) 出3:14~15
 - 全能な神様がともにおられる
- (3) マタイ9:37~39
 - 刈りいれる働き人を送ってください
- (4) 使徒3:6、12~13
 - 足のきかない者をイエス・キリストの御名で
- (5) ヨハネ3:8
 - 悪魔のしわざを打ちこわすために御子が現れた
- (6) マタイ10:7
 - 天の御国が近づいた(イエスの御名=神様が来られた)
- (7) マルコ3:13~15
 - 悪霊を追い出す権威を与えられた

4. 世の中を変化させた人々

- (1) 弟子が見たこと(マタイ9:35~38)
- (2) 70人が見たこと(ルカ10:17~20)
- (3) 120人の信徒が見たこと(使徒1:8)
- (4) パウロが見たこと(使徒27:22~24)

5. 要員を育てる目が必要だ

*EBS、TBS、GBS、HBS、Key member

第12講

伝道に対するイエス様の方法 | マタイ14:19

世界福音化に対するイエス様の方法は、あまりにもやさしい方法を使われたので、のがしやすい方法だった。呼ばれた後に、継続的にともに過ごされた。これが、イエス様の訓練方法の信条であった(With Principle)。

1. パリサイ人とはその方法が違った

- (1) 彼らは学校、組織、プログラムだった

イエス様は弟子たちとともに合宿して、あらゆることを悟るようにされた

- (2) 彼らは説明を用いたが、イエス様は実際に見せられた(ヨハネ1:39、43、46)

2. ともに暮らしながら見せる原理がその中に隠されていた

*この方法はものすごい方法であった

*マルコ3:13~15

- (1) ともにする原理：本、文書、単純な訓練が説明ではなくて、ともに暮らしながら変化できるように見せてくださった

- (2) 出で行って話す伝道の実際を見せられた

- (3) 靈的権威を実際に見せられた

3. 実際的な例

- (1) 病院伝道の実例
- (2) 新しい信徒と出会う実例
- (3) タラッパン現場の実例
- (4) 賛美伝道の実例
- (5) 医療伝道の実例
- (6) 路傍伝道の実例
- (7) 訪問伝道の実例
- (8) 招待集会伝道の実例

4. 何によって助けるのか

- (1) 祈りで重要な助けを与えられる

(エペソ1:16、3:14、ピリピ1:9、テサロニケ1:2, 3, 3:10)

- (2) 親、兄弟、友人として、深い助けを与えられる(マルコ6:7二人ずつ、箴言27:17)

(3) 歩いていかなければならない道に実際に招く。同行して見せてあげるので、大きな助けになる

- (4) 手紙で緊急な危機と葛藤を解消させて支援することができる

(5) 会うことができない間、パンフレットや読みものを通して相当な助けを与えることができる

※ 参考：I.V.P. 靈的赤ん坊を励まそうとするなら

(著者_マイケル・グリフィス / ソン・インギュ訳(韓国語))

1. ヨハネ21:15~18

(1) 弟子を立てる働き人の条件

- ① 裏切った者を探して来られた
- ② 一度も叱られなかった
- ③ 愛を確認された

(2) 主の大いなる命令

- ① 小羊を飼いなさい
- ② 行きたくない所に連れて行かれるだろう

2. 小羊とは誰なのか

- (1) 使徒10:1~3 (コルネリオ)
- (2) 使徒8:26 (エチオピアの宦官)
- (3) 使徒9:1~10 (悔い改めたサウロ)
- (4) 使徒16:15 (レデヤ)
- (5) Iコリント1:2、各地に散った信徒たち(ガラテヤ1:2、エペソ1:1、……)

3. 小羊を飼う理由

- (1) 教会、国家が衰えている(哀歌4:1~4)
- (2) 世界福音化の近道(IIテモテ2:2)
- (3) 教会成長の最高で最大の道(使徒2:41~42、46)

<教会の至急な問題>

- ① 産婦の栄養失調
 - ② 捨てられた乳児
 - ③ 発育できない子ども
 - ④ 一人で部屋に座っている子ども
 - ⑤ 親の浮気、浮気をする主婦
 - ⑥ 世の中に溺れる父
- (4) 終わりの日の危機現象(ヘブル10:24~25)

4. 訓練が終わるころ、より一層、近づかれた

- (1) 田舎に連れて行かれた
- (2) 山、町に連れて行かれた(マルコ7:24、7:31、8:10、マタイ16:13)

5. 苦難の週には、集中的にともにおられた(ルカ22:41)

*福音書の1/3が苦難の週に関する話だ

6. 復活後にも10回以上現れられた(使徒10:40~41)

7. 群衆の働きにも連れて行かれた(マルコ5:31)

8. 他の人を救う時もともに行かれた(ザアカイ、スカルの町)

9. 教会に必須の伝道総合訓練

- (1) 個人伝道
- (2) タラッパン伝道
- (3) 巡礼伝道
- (4) 賛美伝道
- (5) 医療伝道

*参考:ロバート・コールマン「主の伝道計画」

聖書は他にはない唯一の伝道の教科書だ。したがって、キリストの足跡をたどっていくべきだ。主は決して、失敗されなかった。つまり、私たちは完全な師匠に仕えている。主の計画は明らかであった。はじめから、すべての民に伝えることと栄光の日と勝利を計画して、一瞬たりともその目標を忘れられたことがなかった。それで、主が使われた方法を観察することが重要だ。

1. その一生は何人か召されることから始められた

*伝道の組織、公的な説教よりも、まず人を召された

2. 目標は、昇天以後、再臨まで、その働きを継続できる人を召されることであった。

- (1) ヨハネ、アンデレはペタニヤで(ヨハネ1:35~40)
- (2) アンデレを通してペテロを(ヨハネ1:41~42)
- (3) ピリポを通してナタナエルを(ヨハネ1:43~45)

3. 選択を急がれることは絶対になかった(マルコ1:19、マタイ4:19~21)

4. 教えられることを熱望する者たちを呼ばれた

- (1)はじめには、中心人物になりそうでははなった
- (2)卓越した地位ではなかった
- (3)聖職者もいなかった
- (4)裕福な者でもなかった
- (5)哲学者でもなかった
- (6)ガリラヤ周辺の人々 → すなわち、期待しにくい人々だった

*しかし、彼らは無知だったが、教えられることを熱望する者であり(使徒4:13)、知恵は足りなかったが正直な者であり、肯定的であり、積極的な者で、真実な熱望を持った者であった。

(4) 有益

- ①効果的に宣べ伝えることができる
- ②みことばが心に固定されれば、心配が去っていく
- ③罪に勝つようになる(詩119:11)
- ④靈の糧になる(ペテロ2:2)
- ⑤安息を得るようになる(創世記24:63、ヨシュア1:8、詩1:1~3)

(5) 暗唱の鍵

- ①主を愛すべき
- ②恵みを受けるべき
- ③主の指示を受けるべき

1. 神様を知るよう助けるべきである

- (1) 神様は私たちを正確に細かく知っておられる(詩139:1~4、ヨハネ10:14)
- (2) 愛という条件で、私たちを見ておられる(ヨハネ1:9、ローマ5:8、ヘブル12:5~6)
- (3) その愛は変わることはない(イザヤ40:8、ペテロ1:23~25)
- (4) すべての人間とともにおられ、特に、信徒とともにおられる
(ヘブル13:5、ヨシュア1:9)
- (5) 神様は私たちの必要を満たしてくださる(ピリピ4:19、マタイ6:8、創世記22:14)
- (6) 神様は信徒を導かれる(詩48:14、詩16:8、箴言3:5~6)
- (7) 世の中では得ることができない平安を与えてくださる
(ピリピ4:6~7、ヨハネ14:27、ヨハネ16:33)

2. みことばを暗唱、黙想するように助けるべきである。

- (1) 意味
 - ① キリストに似るように(ピリピ2:5)
 - ② 豊かな人生を味わうように(ヨハネ10:10、14:21)
 - ③ 成長するように(マタイ4:4、使徒20:32)
 - ④ 喜びと恵みを味わうように(詩119:29)
 - ⑤ 主との出会い

(2) 理由

- ① 大部分、みことばと離れているので
- ② 実践が難しいので
- ③ 実践すれば、その効果は非常に大きいから

(3) 重要性

- ① 永遠なのは主のみことばであるため(詩117:89、イザヤ40:6,8、ペテロ1:23~24)
- ② みことばに出会う時、たましいが生き返るため(ルカ24:32)
- ③ 常に持っているみことば(マタイ4:1~11)
- ④ 誰もがてきて、誰もがしなければならないため(申6:6、コロサイ3:16)

5. 少数に集中された

- (1) 個人の変化なしには世の中の変化が不可能だ
- (2) 個人が主の御手に捕えられなくては、世界を変化させることは不可能だ
- (3) 確かな人々にされた
- (4) 12人 → 3人 → 1人
 - *ペテロ、ヤコブ、ヨハネを集中訓練、ヤイロの病室にも招かれた
(マルコ5:37、ルカ8:51)
 - *変貌山に別に連れて行かれた(マタイ17:1)
 - *ゲツセマネの園に別に連れて行かれた(マルコ14:33)

6. 全生涯を訓練する事に投資された

- (1) 変化がない時、弟子が倒れた時も、落胆も心配もされなかった(ヨハネ6:66)
- (2) 目標を逃さず、ずっと進行していかれた(ヨハネ17:1)
- (3) 確かな人にされた。ギリシャ哲学やシオニズムに勝てる人にされた

7. 大衆をおろそかにされず、大衆のために少数訓練、個人訓練が必要だった

- *食事する時間さえなかった(マルコ6:31)

8. 主の戦略を理解する者がほとんどいなかった

- *なぜ軍隊のような組織や大規模な学校を作られなかったのか。主の真の目的は、群衆を導くことができる人を必要とされたためだ。これを大部分の教会が理解できずにいる。教会内でえこひいきをするという問題があるかもしれないが、働き人を訓練させなければならない。80年前、共産主義者などがこの原理を悟って地球の半分を占めてしまった。(今は、主の福音の前に崩れたが…)

イエス様の伝道計画「ともに暮らすこと」

世界福音化に向かったイエス・キリストの方法を詳しく見なければならない。イエス様は人々を呼ばれた後に、継続的にともに過ごされた。これが主の訓練プログラムの信条であった。

1. パリサイ人の教えと違った

- (1) 彼らは学校、組織、高度で整頓された過程と法則があった。しかし、イエス様は弟子と合宿しながら、ともに通って、全てを悟るようにされた。
- (2) パリサイ人は説明でしたが、イエス様は実際のことを見せられた
(ヨハネ1:39、43、46)
- (3) 今日、牧師、宣教師、伝道師、信徒、教会が多い。しかし、実際に伝道はしない。それは、方法を知らないためであり、伝道についての勉強は学んだが、実際に伝道する姿を目と生き方で見て習うことができなかつたためだ。人を生かす伝道は、理論、講義、學習では、いくら説明を聞いて、祈って、恵みを受けても仕がない。それは、目で直接見て、生活に適用させが必要だ。したがって、私たちが見せてあげない限り、学生、青年、子ども、後輩が正しい伝道方法を学べない。

2. 原理がその中に隠されていた。

- *この方法は、すばらしい方法だ。イエス様は三つを生活で見せて、訓練させられた
マルコ3:13~15で弟子を呼ばれた目的三つ
 - (1) ともにいるため - 養育、黙想、祈り、みことば研究、暗唱などを実際に見せて教えて養育された最も良い養育法は、本ではなくて共に暮らしながら完全に変化するように見せることだ
 - (2) 伝道させ - 伝道以前の生き方、伝道のための祈り、伝達方法、みことばの使用、例話の使用、伝道以後などを実際に見せて、弟子も知らない間に習得できるように教えられた
 - (3) 悪霊を追い出す権威を与えるため - 精神的な権威をどのように使うかを見せてく
ださった

3. 飢え渴いた者を見つけた時

- (1) 必ずキリストを受け入れさせなければならない
- (2) みことばの学びに招かなければならない
- (3) 人間的な条件には絶対に応じてはならない
- (4) その人の周囲には、また他の飢え渴いたましいがあることを覚えなければならない
*神様はどのように動かれるか分からぬ
聖霊が動かれる。常に神様に従順しよう(高慢と落胆を捨てよう)

イエス様は、世界福音化の確実な方法として、飢え渴いたたましいを呼ばれた。飢え渴いたたましいは、隠されている。ただ、神様が眞実に聖靈の満たしを受けた人に任せることを願われる(使徒13:48)。

1. 飢え渴いた者特徴

- (1) ただ一度で恵まれる場所に応じる(使徒16:11~14, 30~31)
- (2) イエス様だけを宣べ伝えて、恵みを受ける(使徒16:31)
- (3) みことばだけを伝えても、喜びを感じる(使徒8:35)
- (4) 神様に従順することを喜ぶ
- (5) ためらうことなく、福音を宣べ伝えることに向かう
- (6) 肯定的である
- (7) 清潔で単純である
- (8) イエス様を受け入れる心の準備ができている

2. 飢え渴いた者を探す方法

- (1) 誰か分からぬいため、会う人ごとにイエス様を必ず伝える
- (2) いつ心の門が開くか分からないので、会う時ごとに宣べ伝える(証しする)
- (3) みんなに広く体系的に伝える
- (4) 招きに応じられる確かな招待状を活用する(タラッパン別個人招待状)
- (5) 無理にせずに、靈的にしなければならない
- (6) 10人の中で1、2名を主が隠しておかれた(ジェームズ・ワグナー)
- (7) 思ってもいないところに備えられている

3. 訓練が終わりに近づくほど、もっと親しくされた

- (1) 人を避けて田舎に連れて行かれることもあった
- (2) 山に、町に連れて行かれた
 - *ツロ、シドン(マルコ7:24)
 - *デカポリス(マルコ7:31)
 - *ダルマヌタ(マルコ8:10)
 - *ピリポ・カイザリヤ(マタイ16:13)
 - *ヨルダンの東側(ルカ13:22)
 - *エルサレム(マタイ20:17)
- (3) 苦難の週には、一瞬ものがさすにともにおられた(ルカ22:41)
- (4) 復活後にも10回も現れられた(使徒10:40~41)

4. 群衆の働きをしながら連れて回られた(マルコ5:31)

5. 弟子だけでなく、他の人も一緒に訓練された。

- *ザアカイ(ルカ19:7)
- *スカルの町で(ヨハネ4:39~42)
- *マリヤ、マルタ(ルカ10:38~42)

6. 教会の必須の訓練

- (1) タラッパン聖書の学び
- (2) 個人養育法
- (3) 個人伝道法

イエス様の伝道計画「模範」

イエス様は、弟子たちが学ばなければならない事を自ら実践されて、弟子たちに手本を見せられた。聖書を90回以上引用されて聖書の権威を見せられ、祈りの手本を見せて、ガリラヤ湖の突風を通して信仰で環境を克服する方法を教えられた。また5つのパンと2匹の魚の奇跡を通して力を見せられ、彼らもそのようなことを行えるということを教えられ、小さなたましいに向かう時、大事にする態度を見せられ、最後の過越の祭りには自ら手ぬぐいを腰につけて弟子たちの足を洗って愛の手本を見せられた。このようなイエス・キリストの透明な生活と、自由な生き方を通して、弟子が自分でもしてみようと思う意欲を吹き込んでくださったのだ。また、イエス様は秩序の中で生きて、謙そんと同時に賢い判断と知識を適切に使って、世の中でどのように生きていかなければならぬかを見せられた。

このようなイエス様の生き方を私たちに適用する時、一言で適切な表現をした使徒パウロの「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」(コリント11:1)と言うくらいにならなければならない。

私たちは手本である(ビリビ3:17、テサロニケ2:7-8、ロモテ1:13)、彼らは私たちから見聞きした通り行なはずである(ピル4:9)。私たちが訓練させている人々に正しい手本を見せるのは、私たちの義務だ。これは実際には、聖霊が私たちの内的な人を深く感動させられる時だけ外的に行える働きだ。私たちは常に完全な主を見ならう生活を通して、他の人に弟子としての手本を見せなければならない。

1. 私たちは、福音書を通してイエス・キリストが弟子に手本を見せられた姿を探すことができる
 - (1) マタイ4:4、マタイ4:7、マタイ4:10、マタイ12:3~5、マタイ13:14
 - (2) マタイ14:23、マルコ1:35、ルカ6:12
 - (3) マタイ8:23~27、マタイ17:18~20
 - (4) ルカ18:15
 - (5) マタイ26:39、42
 - (6) ヨハネ13~15

5. 復活された主は世の中を変化させる力を使徒たちに与えられた

- (1) その力とは何なのか(使徒2:1~13)
- (2) いつ受けたのか
- (3) どこで受けたのか

6. 伝道者に与えられた神様の決裁事項(要約)

- (1) 青写真(使徒1:8)
- (2) 権利権(使徒1:5)
- (3) 志願(使徒1:15)
- (4) 世の中を変化させる一致作業(使徒2:9~11)

7. 地域を生かす福音運動の原理

- (1) いのちの運動(ヨハネ1:12)
- (2) イエスの力運動(使徒3:1~12)
- (3) いやし運動(IIIヨハネ1:2)
- (4) 祈り運動(使徒1:14)
- (5) 世の中の変化(伝道)運動(使徒1:8)

伝道は、思いつきによる活動ではない。神様のみことばに単純に答える形式的な反応は、より一層違う。神様とのいのちの関係で、神様の存在自体であり、ものすごく大きな神様の計画そのものである。

1. 信徒は神様の命令である伝道をどの次元で受け入れるべきか

- (1) 出エジプト3:8、11~12
- (2) 使徒9:3~5、15~16(従順にすること)

2. 伝道と世界史との関係

- (1) マタイ24:14~15
(この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。)
- (2) エゼキエル3:18~20
(わたしが悪者に、『あなたは必ず死ぬ。』と言うとき、もしあなたが彼に警告を与えず、悪者に悪の道から離れて生きのびるように語って、警告しないなら、その悪者は自分の不義のために死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。)
- (3) IIテモテ4:1(時が良くても悪くても、みことばを宣べ伝えなさい。)
- (4) Iテサロニケ2:19
(私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。)

3. 神様は伝道者に何をゆだねられたのか

- *使徒1:1~11(聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。)

4. 使徒たちは、胸の中に何を持って祈ったのだろうか

- (1) 使徒1:8 - 約束されたことを待ちながら、聖霊の力を慕い求めた
- (2) 使徒1:14 - 心を一つにして、祈りに専念した

2. 多くのクリスチャンが光の生活で模範を見せることができないため、未信者に福音を宣べ伝える道が妨げられ、弱いクリスチャンに失望を与える場合が多い。あなたの場合はどうだろうか。

*次の聖書箇所を見て、整理して、自分に適用して、感じることを言ってみよう。
*Iコリント11:1、ピリピ3:17、Iテサロニケ2:7~8、IIテモテ1:13、ピリピ4:9

3. 私の決心

*私が、主に従う弟子として、他のクリスチャンと未信者に手本になれなかったことを反省して、具体的に次の通り生活することを決心します。

主は完全な方なので、その計画も完全だ。人の全てをご存知なので、私たちに対する計画も完全だ。私たちを呼ばれた時、完全な勝利を準備された。呼ばれた時、完全な計画を立てられた。救われた者のために来世まで準備された。この世に生きる間、神様の国を広げることが私たちの窮屈の目標だ。

1. 主は従順を要求される

- (1) 自分の知性に依存するのではなく、主の命令に依存するのだ
- (2) 自分の計画を固持することなく、自分の方法を守ることでもなく、主の方法に依存するのだ。それは、主に似通っていく最も速い道だ。
- (3) 「わたしに従いなさい」と言われた。これは従順を要求されたみことばだ。従順は、従順する前に信頼がなければならない。主を信頼しなくては従えない。

2. それは十字架の道だ

- (1) 十字架は死を象徴する
- (2) 主の主権に降参することだ。どんな妥協も有益を与えることはない。
- (3) 罪を完全に捨てることで、昔の考え方、世的な習慣、快樂を捨てることで、神様の国の新しい訓練に臨むことだ(ルカ6:20~49)
- (4) 多くの人が途中であきらめた。親、兄弟、妻子、財産までも放棄するように言われた(マタイ8:21~22、ルカ9:59~60)。
- (5) 決して軽い選択ではない(ルカ14:28)。
- (6) 訓練が終わりに近づいた時、16回も苦難と犠牲について説明された
*大部分の人がこういう教えを受ければ、あらかじめ逃げてしまう。
これがイエス様の教育目標であった。
- (7) ペテロさえも理解することができなかつた(マタイ16:22~23)。

3. 使命の後に来る祝福

- (1) 主人の喜びに参加(マタイ25:21)
- (2) より大きく多くのことを任せられる(マタイ25:21)
- (3) いのちの冠が備えられている(黙示2:10)
- (4) 生活の祝福を受ける(マタイ6:33、ガラテヤ6:7、マルコ10:29~30)

4. 討論、祈り

- (1) 管理者に求められることは何なのか(コリント4:2)
- (2) 使命をおろそかにした者に、主はどうのように対処されるのか(マタイ25:26~30)
- (3) 私たちの持っていることは、誰のものなのか(ペテロ4:10)

神様は多くのことを任せて下さった。健康、財産、職分も、全部、神様が任せられたことである。したがって、管理者には、忠実であることが要求されます(コリント4:2)と言われている。それは、私たちのいのちと活動力には限界があるためだ。

1. 神様が与えられた使命

▶ いろいろな形で職分をくださった

(1) 牧師(エペソ4:11)

(2) 長老(使徒10:30)

(3) 執事(使徒6:3)

(4) 聖歌隊(I歴代6:31)

(5) 教師(エペソ4:11)

(6) 会計(IIコリント8:20)

(7) 事務員(マルコ13:34)

(8) 警備(I歴代9:27)

(9) 伝道者(Iテモテ1:3)

(10) 福音を伝える者を助ける者(ガラテヤ2:7、Iテサロニケ2:4)

▶ したがって

(1) 良い管理者になるべきである(Iペテロ4:10)

(2) 主人のものを引き受けて管理する者である

(3) いのちも神様のものである

2. どのように果たすことができるのか

(1) タラントに従ってすべきである(マタイ25:14)

(2) 私的な思いですれば失敗する(ヨハネ12:6)

(3) 神様の前でしなければならない(コリント4:2)

(4) 他の人に恵みを及ぼすほどに(Iペテロ5:3)

(5) 主が精算される日が来ることを覚えておかなければならない

(ルカ12:48、マタイ25:19)

3. しかし、その栄光はすばらしいことだ

* その栄光は、いのちと復活と世界福音化だ

(1) 十字架のメッセージを理解できなければ、伝道者の位置を理解できない

(2) しもべの位置で勝利する奥義が理解できない(ルカ22:24-30)

(3) 天国で偉い者が誰なのか悟ることができない(マルコ9:33-37)

(4) ペテロと弟子は、初めにはその栄光が分からず、また魚を捕りに行った。

それは、主の目的を悟ることができなかつたためだ。

4. すばらしい栄光は従順を要求する

(1) 従順は教理ではなくて、生涯を捧げることで、その時から真理が分かるようになる(ヨハネ8:31-32)

(2) 原因と結果が預言された(ヨハネ14:15、21)

(3) 主がまず従順の手本と見せて下さって、世界を生かされた

(ヨハネ4:34、5:30、15:10、ルカ22:42)

(4) 十字架は世界を生かして、神様のみこころを成し遂げる決定的な献身だった

(5) イエス様は死ぬために来られたが、よみがえられて昇天された

* なぜ成長できず、伝道に無気力なのか。それは不順従のためだ。

従順の原理は、世界福音化の確実な階段である。

1. 教わることには忍耐が必要だ

*イエス様は明らかな指示はされずに、はじめには、とにかく弟子を連れて回られた。それは、まず、いのちの関係を結ぶためであり、もう一つは忍耐する心を植え付けるためだった。もちろん、彼らの自発的な奉仕、伝道は止められなかつたが、はじめの頃に重大な命令や真の目的において指示されたことはない。はじめには、単純な食べ物の準備、寝る所の準備などをさせられた。最初の一年間は、イエス様の働きを観察すること以外は、あまり何もしていないのを見る時、驚かざるをえない。彼らが正式に任命された後(マルコ3:14~19)にも、伝道の働きをした証拠はない。

2. 時がきた時、イエス様は伝道を命令された

*それは、3回目のガリラヤ伝道旅行(マルコ6:6)の時からであった。その時に、主は伝道の概要を明らかに知らされた。

(1) まず、人生の目的を再確認させられた

*神様の国を伝えなさいとおっしゃった(ルカ9:1~2、マタイ10:1、マルコ6:7)

(2) 伝道者の権威を知らせられた

①マルコ3:13~15

②マタイ10:1

③ルカ9:1, 10:17~20

死者をも生かし、らい病人をきよめながら、悪霊を追い出すことを知らされた

(3) まず出会うべき人についてずっと語られた

①マタイ10:5~6

②ルカ10:1

(4) 生活の必要に対して心配してはならない

①マタイ10:9~10

②マルコ6:8~9

③ルカ9:3

2. 真の謙そん

(1) ダニエル2:27~30

(知者、呪文師、呪法師、星占いも王に示すことはできません。しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられます。)

(2) イザヤ42:8

(わたしは主、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。)

(3) Iペテロ5:5~6

(同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。高慢は神様に敵対する者になるのだ。)

(4) ミカ6:8 - へりくだってあなたの神とともに歩むことが良いこと。

(5) 箴言6:16~17 - 主の憎むもの。主ご自身の忌みきらうもの。

〈高慢〉 ①サタンの愛用物

②鈍くさせる毒

③他人を無視

④不安定の要因

(6) II歴代26:16 - ウジヤは高慢に(香の壇の上で香をたこした)なって、らい病になった

(7) ダニエル5:20 - ネブカデネザルが高慢になって没落

(8) IIコリント12:8~9

(ですから、私は、キリストの力が私をお救うために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。)

3. 生きた信仰

ヘブル11:6

(神様は一つも失敗がない方で、絶対的に正しく、約束は間違いなくなれるお方である)

(1) 与えられる神様(ピリピ4:19)

(2) 実を与える神様(詩1:1~6)

(3) 絶対的な方

ダニエルは、捕虜の身であり、慣れない正反対の法を持ったバビロンで、反対の規律と法に直面するようになった。暴力と偶像崇拜が横行している中で国務総理になって、神様の栄光を表わした。それなら、彼の内面生活はどのようなものだったのだろうか。私たちは、方法とともに目に見えない隠れた訓練が必要だ。たとえ弟子訓練、伝道訓練が完成されたとしても、内的訓練ができていなければ、失敗するようになる。パウロは牢の中で神様の力を現わした。彼の内的訓練はどのようなものだったのだろうか。

◆ パウロの信仰告白(内的生活) - ピリピ3:7~14

- (1) キリストに発見されることを望む
- (2) キリストの手にあるものを捕らえようと追求している
- (3) 上に召してくださる神の栄冠を得るために、一心に走っている
- (4) 自分を否認した(ルカ9:23~25)

1. 神様に向かったきよい中心

- (1) Iサムエル16:7
(彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。)
- (2) ダニエル1:8
(ダニエルは、王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め、身を汚さなかつた。)
- (3) ピリピ3:14
(上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。)
- (4) IIテモテ2:21
(だれでも自分自身をきよめれば、尊いことに使われる器となり……あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。)
- (5) ピリピ4:19
(あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます(野心を持ってはならない))

(5) 最も重大な主の方法を指示された

- ① 好意的な人にまず会いなさい
- ② そこに留まりながら続けなさい
- ③ すなわち、彼らが離れた後、その働きをずっと続けられる有望な人に集中しなさいということだ
- ④ 潜在力がある指導者を立てて、伝道の働きを継続することを忘れてはならない
- *すべての伝道計画はこの原理にかかっていた

(6) 困難でも期待しなさい

- *マタイ10:17、18、22、23、10:20、21、10:32~33
- (7) 知恵も使いなさい(マタイ10:16)
- (8) 福音の結果をあらかじめ期待しなさい
*マタイ10:34~38 革命的福音、改革的福音
- (9) 伝道者の歩みは、キリストの代任(同一性)であることを覚えなさい
*マタイ10:40、ヨハネ13:20、マタイ10:42

(10) 復活された後には、さらに確実な語調で命令された

- ① 釘の跡を見せながら(ルカ24:38~40)
- ② ペテロに(ヨハネ21:15~18)
- ③ ガリラヤの山で(マタイ28:15~20)
- ④ 全体教会に(コリント15:6)

イエス様は神様私たちに見せるために来られた方であり、私たちを神様に導くために来られた方だ(ペテロ3:18、ヨハネ4:6)。イエス様が立たれる所は神様が関心を持たれる所であり、イエス様が泣かれるのは神様が悲しまれることで、イエス様が喜ばれるのは神様が喜ばれることだ。したがって、イエス様の公生涯3年は非常に貴重で、一歩一歩、一時間一時間が意味のある時間と事件であった。その公生涯3年間に、イエス様が私たちに何を見せられたのかということは、かなり重要なことだ。イエス様は祈りだけする人を願われなかつた。聖書だけ見る人を願わず、単純に伝道だけする人を願われなかつた。

イエス様は弟子と聖徒たちに「分与」の原理を悟らせるのに全生涯を注がれた(ペテロ3:18、ヨハネ4:6)。

1. 分与の意味

- (1) ヨハネ20:22 - 世の中のすべての師匠は、技術、著書、秘訣、秘法などを教えて去っていった。しかし、イエス様は秘訣を伝授して亡くなつたのではなく、よみがえられて、聖靈で信徒とともに留まられることを約束された。
- (2) ヨハネ14:16、ヨハネ14:26~27、ヨハネ2:20~27、マタイ18:18~20
- (3) マタイ28:20、マルコ16:20、黙示3:20

2. 昇天の意味と分与(聖靈の働き)

* ヨハネ16:7~15

3. 分与(内住)の結果

- (1) 悟り(ヨハネ16:4)
- (2) 平安(ヨハネ14:27)
- (3) 勝利の鍵(ヨハネ16:33、マタイ16:19)
- (4) 聖くされる(ヨハネ17:18~19)
- (5) 力(使徒1:8)

(2) 伝道の原理(マルコ3:14)

* John Stottの理論「伝道とは、私に臨んだキリストの栄光を話すことだ」

- ① 未信者を見る診断(使徒10:38)
- ② 全世界を見る目(マタイ28:18~20)
- ③ 治療(たましい、心、肉体)
- ④ たましいの救い(ペテロ1:9)
- ⑤ 受け入れ(いのちの運動)

(3) イエスの権威と信徒の権威の関係(マルコ3:15)

- ① Jerry Hornerの主張
- ② 信じることと告白すること
- ③ 祈ることと命じること
- ④ 信じることと成されること

すべての教会は福音書と使徒の働きに帰らなければならない。それは、唯一の目撃者たちが述べたことだからだ(ルカ1:2、ヨハネ20:30、21:44)。したがって、聖書はただ一つしかない伝道の教科書である。それで、キリストの足跡に従って行かなければならず、その足跡に従った者たちの歩みを調べてみなければならない。私たちは完全な師匠を仕えている。その方は、恐ろしいほど完全な計画を持っておられる。あせる者、怠ける者、祈らない者、野望を持った者、イエスの力を知らない者の目には決して見ることができない。

1. 人(働き人)を探して、立てて、派遣することだけが唯一の道である

- (1) その働きは、召されることから始まった
- (2) その目標は、再臨して来られる時まで、この働きを続けられる戦略を樹立することだった
- (3) 急ぐことはなく、怠けたり、のがしたりもしなかった
- (4) 教えられることを熱望する者を召された
- (5) 個人と少数に集中された
 - ①個人の変化なしでは、世の中の変化は不可能
 - ②個人が主の御手の中に捕えられなくては、世界の変化は不可能
 - ③確かな人にさせられた
- (6) 全生涯を訓練に投資され、11人を残して行かれた
- (7) 大衆をおろそかにはされなかった
- (8) その結果、ものすごい群衆に刺激を与えた
- (9) 主の戦略を理解する者は、ほとんどいなかった

2. 訓練させる方法(マルコ3:13-15)

- (1) ともにいる原理(マルコ3:14)
 - ①イエスの御名、権威を理解(マルコ28:18)
 - ②イエス様の権威が、信じる者に臨むことを立証された(ヨハネ1:12、使徒3:6)
 - ③イエスの御名の前にサタンが縛られて、聖霊が臨まれることと、悪霊が追い出され、癒しの働きが起きることを見せてくださいました
 - ④今でもその原理は立証される(マタイ10:40)

4. この事実を悟って祈る時

- (1) 確実に力が臨む(使徒2:1~5)
- (2) しるしと不思議が現れる。それは、主が直接行われる(使徒3:1~12)
- (3) 主が大胆さを与えられる(使徒4:1)
- (4) 主が不信頼な者を防がれる(使徒5:1~10)
- (5) 主が真実な働き人を立てられる(使徒6:1~5)
- (6) 主が一般信徒も用いられる(使徒8:4~8)
- (7) 主が迫害者を悔い改めさせられる(使徒9:1~10)
- (8) 主が宣教の門を開かれる(使徒10:1~9、13:1~5)

時になった時、イエス様は一連の働きのために弟子を訓練されたが、彼らがすべての訓練過程を終えて、最終的な委任をする時までは、徹底して彼らを管理されたことが見られる。主は弟子達だけを送って仕事をさせられた後に、また集めて、彼らが経験した事実を互いに話させて、そのことに対して評価をされ、また新しい事実を教えられた。

イエス・キリストは、彼らが成功したことだけでなく、失敗したことを通して学ぶようにされ、学んだことを実践するようにされた。また主が弟子と一緒に自ら働きかけたことは、弟子達を教える方法として使われただけでなく、後に弟子達が働きをするのに良い材料となつた。イエス様は、弟子達の行動と態度に常に敏感に対処されて、彼らの状態を点検するのが将来の働きを準備させるためのもう一つの段階であることを念頭に置かれていた。イエス様が復活された以後に、最終的な委任を彼らにされたが、その後にも、約束された聖霊で来られて新しい次元の点検を継続されていることは重要な事実だ。

1. イエス様は弟子が成功した事実に対して点検して管理された

- (1) ルカ10:17 - 弟子の報告
- (2) ルカ10:18 - 主の励まし
- (3) ルカ10:20 - 主の教訓

2. イエス様は弟子が失敗した事実に対して点検して管理された

- (1) マルコ9:17~29
- (2) マルコ9:23 - 主の教訓
- (3) マルコ9:28~29 - 主の教訓

3. 弟子の不信仰に対して主は点検して教えられた(マタイ16:8~11)

4. 弟子の誤った確信に対して主は点検して改めて下さった(ルカ9:49~50)

3. 私たちの信仰告白10箇条(私たちの土台)

- (1) 神様の主権(I歴代29:10~12)
- (2) 歴史の主人公(エペソ1:1~13)
- (3) 聖霊の働き(ヨハネ14:15~16)
- (4) 聖書の権威(Iテモテ3:14~17)
- (5) 神様の神殿(聖徒)(Iコリント3:16)
- (6) 私のいる所が宣教地(使徒18:1~4)
- (7) 生と死、災いと祝福の支配者(詩139:1~9)
- (8) すべての人間に死、審判が定められている(ヘブル9:27)
- (9) 来世の存在(ルカ16:19~31、黙示14:1~9)
- (10) 伝道者の報い(マタイ10:42)

4. 神様の目的3つ

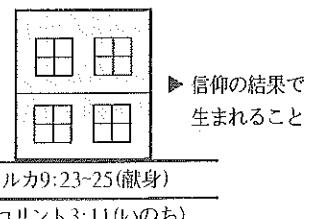
- (1) 存在 (2) 教会 (3) 場所 - それぞれがいる所で神様の目的を見出すべきだ

5. 福音を伝える前の問題点

- (1) 動機、方法、事後管理(内容)
- (2) 4種類の信徒(教わっていない者、確信がない者、忠実な者、使者)

6. 伝道者の基本戦略(急ぐべき事)

*建物より重要なのは基礎工事である。



7. 伝道者の人生

- (1) みことばの原理を信じて従う者
*イザヤ40:8、マタイ5:17~18、ヨシュア1:8、ヨハネ15:7、出3:15、ヘブル4:12
- (2) 仕えるしもべ(Iコリント4:4~5、マタイ10:16)
- (3) 捨てる者(マタイ19:29、ルカ14:33、9:23、マルコ19:27、18:28)
*福音かいのちかを選ばなければならない時、福音を選択する。
- (4) 派遣された大使(マタイ10:40) - イエス様の代わりに
- (5) 十字架を負う者(ルカ9:23)

伝道者、宣教師、伝道活動に献身する者は多い。しかし、実りが少ないことが見られる。伝道をしたい心はあるが、伝道がうまくいかずに悩む信徒も多い。それは、伝道できる資格、内容(動機)、方法を聖書から正確に見出せなかつたためだ。それで、まず、神様が救いの働きをまかされる資格者について調べてみよう。

1. 神様が福音を伝える働きに用いる資格者

- (1) キリストを正しく知っている者(14上)
① John Stoltの理論(伝道とは私に臨んだキリストの榮光を話すことだ)
- (2) キリストを体験して救いに確信がある者(16中)
② モーセに与えられた神様の確信(出エジプト3:1~15)
- (3) キリストによって動かされ、その力を知って、それによって生きていく者(16下)
③ ヨシuaに与えられた確信(ヨシua1:1~9)
④ 伝道者は説教者ではなく「証人」である

2. キリストを欠ける所なく知っている者(確信)に与えられた3つの祝福

- (1) 福音を伝える(18上)
① 岩のようにしてください
② 教会を建てる(福音を伝える)
– 使徒1:8、マタイ24:14、福音の門を見出すことは、すべての祝福の門を見出したことだ
- (2) ハデスの門に打ち勝つ(18下)

聖書は、人間を救う唯一の人生の教科書だ。聖書にだけ、救いとサタンの戦略が暴露されている

- ① 減びの動機と張本人(創世記3:1~5)
- ② 減びの状態(創世記3:16~20)
- ③ 減ぼされた者の身分(ヨハネ8:44)
- ④ 減ぼされた者の実存(エベソ2:1,2,3,6)
- ⑤ 減ぼされた者の信仰(コリント10:20、マタイ12:44~45)
- ⑥ 減ぼされた者の最後(ルカ16:19~31)
- ⑦ キリスト・イエスが来られた理由(ヨハネ14:6、ヨハネ3:8)

- (3) 天国の鍵を所有(祈りの答え、19)

5. 弟子の衝動的な怒りの態度に対して主は点検して直された
(ルカ9:51~54)

6. 復活された主が送られた聖霊がクリスチャンをずっと点検される(ヨハネ16章)

福音を継続して伝えることができる唯一の方法は、再生産することだけだ。時々、神様は一人、または、一つの群れを主権的に直接、呼び起こされることもあるが、神様の基本原則は、訓練された人たちを通して、また他の人々を呼んで訓練させることだ。

それで、マタイ28:19~20の「あなたがたは」「行って」「弟子としなさい」「バプテスマを授け」「守るように、教えなさい」を至上命令と呼ぶのだ。

イエス様は、選んだ弟子を再生産できる人に訓練させて「彼らのことばによって」(ヨハネ17:20)他の人が主を信じるようになることを期待された。実際に、イエス様が世を離れられた後に、弟子達は独立した働き人として、イエス様の事業を継承して福音を伝えるだけでなく、次世代に福音を宣べ伝える人々を訓練させた事実を見ることができる。このような働きの継続は、2千年の教会の歴史を通して確かに見られる。

私たち、また時になれば、私たちが訓練させた弟子を再生産する独立した働き人として送らなければならない。もちろん足りないことも多いが、聖霊様が継続的にその人を訓練させられ、管理されるようにゆだねなければならない。事実、イエス様も弟子達の訓練を終えられる頃、弟子達はあまりにも弱く足りない状態であり、信仰もなくて、心さえかたくなな状態であった(マタイ16:14)。しかし、イエス様は弟子訓練を終えて、来られる聖霊様に彼らをゆだねられた。聖霊様が彼らの中で働く時、彼らは力を与えられた。そして、力をもって福音の働きをするようになったのだ。

3. E.B.S.要員の姿勢

- (1) 新しい信徒がイエス・キリストを受け入れることにポイントを置くべきである
- (2) 新しい信徒の成長のために祈りをもって助けるべきである(その人には、まだ祈る力もなく、祈ってくれる人もいないからである)
- (3) 新しい信徒の良き友となるべきである(その人は、新しい葛藤にぶつかるので、その困難な状況に立ち向かうためのみことばや友達が必要である)
- (4) あまり、自分に頼りすぎないようにさせるべきであり、また、自分に似た人にする必要もない
- (5) できるだけ、その人と同行する(集会や祈り会、誕生日のパーティなど、いろいろな活動とともにすることによって、その人の性格を把握し、適切な助けを与える必要がある)

1. 実を結ぶことと、再生産することを比較しておっしゃった

- (1) ヨハネ15:2
- (2) ヨハネ15:4

2. マタイ18:18~20の至上命令を要約して説明しなさい

- (1) あなたがたは
- (2) 行って
- (3) 弟子としなさい
- (4) バプテスマを授け
- (5) 守るように、教えなさい

*「世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」(マタイ28:20)とは、

何を意味するのか

ほとんどのクリスチヤンは、単に、信徒が未信者に福音を伝えることだけが伝道だとと思っている。しかし、それは狭い意味の伝道であって、聖書に見られる伝道の概念は、より広範囲である。福音を伝えることはもちろん、新しい信徒を育てて働き人として成長させ、また、彼らを生活の現場に遣わし、そこで実を結ぶように配慮するすべての内容が伝道である。伝道には「働き人の養育」が必修の項目なので、彼らを別に訓練すべきであろう。こういう意味で、E.B.S.要員の訓練は、とても大切なことであり、この訓練に臨む人は、他の人とは違った熱心さや使命感が求められる。

3. 今日、地教会、キャンパス、職場などで、この原理をどのように適用できるのかについて、討議してみよう

◆ E.B.S.(Evangelism Bible Study)

イエスのいのちを持っている者で、使命感を持って新しい信徒を継続的に育てることができる人をE.B.S.要員と言う

1. E.B.S. 要員の資格

- (1) 肯定的な考え方を持っている人
- (2) 絶えず聖靈に自分自身をゆだねる人
- (3) 救いの感激があふれている人

2. E.B.S.要員にふさわしくない人

- (1) 否定的な人
- (2) 批判的な人

Contents

序論_4

- 第1講》福音化運動の資格者(マタイ16:13~20) _ 6
第2講》伝道は人を探して、立てて、派遣することである(マルコ3:13~15) _ 8
第3講》靈的指導者(伝道者)の内的生活(訓練)(ピリピ3:7~14) _ 10
第4講》使命を果たすことと祝福(マタイ25:14~30) _ 12
第5講》伝道者のための神様の備え _ 14
第6講》飢え渴いたましいを探そう(使徒16:11~14) _ 16
第7講》個人養育はどのようにするのか _ 18
第8講》小羊を飼いなさい(ヨハネ21:15~18) _ 20
第9講》核心要員は神様の視線に注目しなければならない(使徒2:17~19) _ 22
第10講》福音を宣べ伝えること(福音化)の當為性(使徒17:1~9) _ 24
第11講》イエス様のビジョン _ 26
第12講》伝道に対するイエス様の方法(マタイ4:19) _ 28
第13講》イエス様の伝道計画「選択」 _ 30
第14講》イエス様の伝道計画「ともに暮らすこと」 _ 32
第15講》イエス様の伝道計画「模範」(ヨハネ13:15) _ 34
第16講》イエス様の伝道計画「従順」(マタイ11:29) _ 36
第17講》イエス様の伝道計画「代任(委任)」(ルカ10:1~42) _ 38
第18講》イエス様の伝道計画「分与」(ヨハネ20:22) _ 40
第19講》イエス様の伝道計画「継続的な点検」(マルコ8:17) _ 42
第20講》イエス様の伝道計画「再生産」(ヨハネ15:16) _ 44

E.B.S.基礎訓練教材

初版 1刷 発行 2008年 8月 22日

著者 柳光洙

発行 社団法人 世界福音化伝道協会

住所 ソウル市江西区登村2洞534-2 宣教ビル2階

電話 82-2-3662-7661

FAX 82-2-3662-7149

ホームページ www.wedarak.net

© この出版物の著作権は社団法人世界福音化伝道協会にあります。

從って、無断転載や無断コピーはご遠慮ください。

印刷に不具合のある場合は交換致します。

E.B.S.

基礎訓練教材

著者 柳光洙牧師



ほとんどのクリスチヤンは、
単に、信徒が未信者に福音を伝えることだけが
伝道だと思っている。
しかし、それは狭い意味の伝道であって、
聖書に見られる伝道の概念は、
より広範囲である。

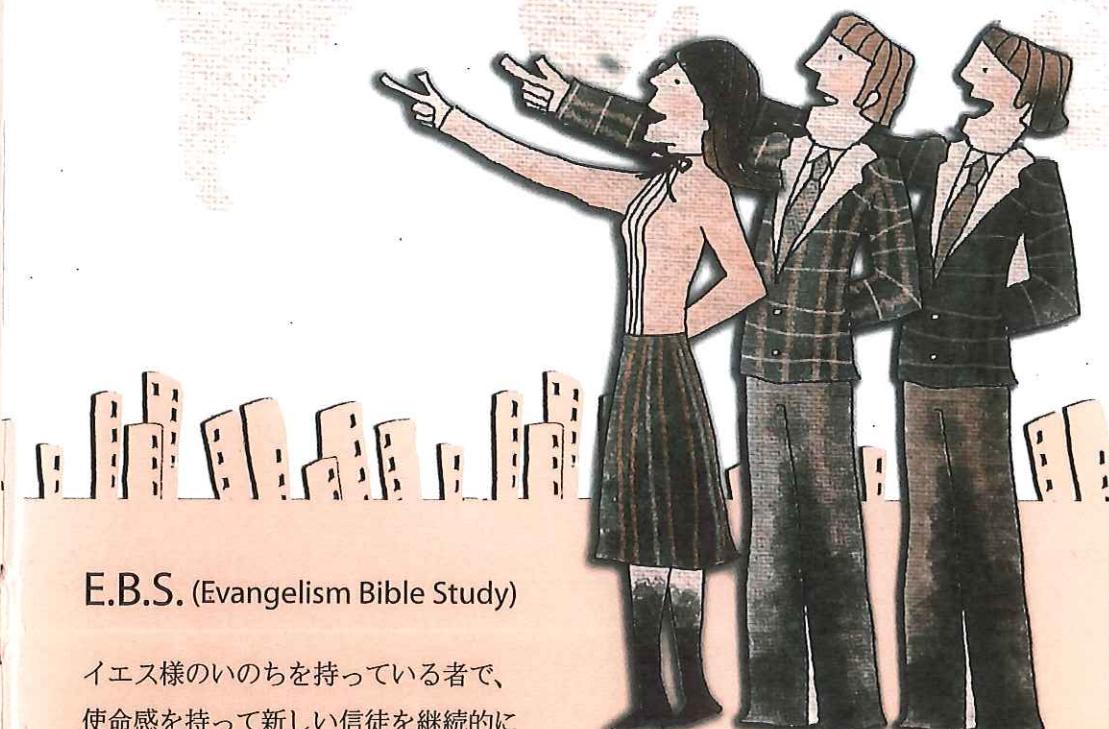
福音を伝えることはもちろん、
新しい信徒を育てて働き人として成長させ、
また、彼らを生活の現場に遣わし、
そこで実を結ぶように配慮するすべての内容が伝道である。
伝道には「働き人の養育」が必修の項目なので、
彼らを別に訓練すべきであろう。

こういう意味で、E.B.S.要員の訓練は、とても大切なことであり、
この訓練に臨む人は、他の人とは違った熱心さや使命感が求められる。

E.B.S.

基礎訓練教材

著者 柳光洙牧師



E.B.S. (Evangelism Bible Study)

イエス様のいのちを持っている者で、
使命感を持って新しい信徒を継続的に
育てることができる人をE.B.S.要員と言う